

2

地域のチカラ

「豪雨が奪ったもの」 地域のつながりが取り戻すもの」

たくさんの方が「いつまでも、暮らし続けたい」と願う『住み慣れた地域』。

この言葉のなかには一人ひとりが自分らしく、幸せに暮らしていくためのたくさんの要素が詰まっています。

住み慣れた地域には、自分の落ち着く「自宅」があり、自宅以外でもそこに居るとホッとできる「居場所」もあります。

これまでの住民同士のつながりのなかで生まれた「なじみの関係」や「マイペースな生き方」があることが、地域での生活をいつそう輝かせてくれます。

「自分の役割」があり、「癒し」があり、「思い出」が詰まった地域だからこそ、多くの方がこの場所で生きていきたいと願うのです。

豪雨は地域と住民のこれまで積み上げてきた大切な宝物を土砂に埋め、水で押し流してしまいました。しかし、これまでの地域でのつながりや安心感があるからこそ、「再びこのまちに帰りたい」「この人たちと一緒に生き続けたい」と願い、その実現に向けた意思や取り組みは、新しい地域づくりの原動力となっていくきます。

住み慣れた地域





「非常時でも日常でも

目指すのは「暮らし」にたくさんの「き」がつく支え合いの「らしき」

暮らしに寄りそう

日頃のつながりがあるから、いざという時に助け合うことができます。「お互いさま」「お互い御用」寄り添う支援が日々の暮らしと地域のこれからを支えます。

■日常

- ごみ出し ●掃除
- 電球交換 ●草刈り
- 買い物 ●送迎 等

■災害

- 家屋の片付け ●相談
- 見守り支援 ●移動支援
- 生活支援物資のお届け 等

暮らしが交わる機会

出合いや、話し合いのきっかけ（機会）は地域の色々なところにあります。きっかけづくりを応援することで、「支え合い」はいっそう加速します。

■日常

- 「通いの場」
- 地域の交流会
- 小地域ケア会議 等

■災害

- 居場所や交流の場づくり
- 避難所や仮設住宅でのサロン 等

暮らしに気づき 気づかい・気配りを

お互いの暮らしに関心を持つことから「支え合い」は、始まります。愛情ある人への気づきは気づかいと気配りへと広がっていきます。

■日常

- 挨拶 ●声かけ
- 井戸端会議 ●見守り 等

■災害

- ご近所さんの状況や連絡先の把握
- 被災者のニーズ把握と相談 等



- 「暮らし」に「気」づかい・「気」配りを
- 「暮らし」が交わる「機」会を大切に
- 「暮らし」に「寄」りそう
- 「暮らし」の場に「帰」ってこられるように
- 「暮らし」の場をより良くする「企」画を
- 「暮らし」に「喜」びや「希」望を



一人ひとりの「暮らし」が「輝く」まちづくり



災害を通して得た3要素が地域づくりの推進力に

1

愛情

普段は何気なく暮らしていたこの地域。災害が起きて、まちの景色が変わって改めて気づいた、地域のあたたかさや心強さ。「このまちで暮らしたい、このまちを守りたい」。「わがまち」に「わがごと」意識が芽生えたとき、愛情あふれる地域づくりの第一歩を踏み出します。

2

危機意識

「次に同じような災害が起きた時、どのように対処したらいいだろう?」「家族や近所の人を守れるだろうか?」大きな被害を受けた経験と教訓は、必ずこれからの防災意識や日頃からのつながりづくりに活かされます。

3

きっかけ

一人ひとりの支え合い意識が地域の支え合い活動へ広がるために、みんなで集い、話し合う「きっかけ」も大切です。今回の災害は被災地以外の地域でも、日頃からのつながりづくりだけでなく、同じ倉敷の住民として被災者・被災地にどのような関わりができるかを考える大きな契機となりました。